

令和6年度大分県立特別支援学校第三者評価【評価書】

学校名	大分県立盲学校		
重点項目	評価項目	評価の観点	評価
学校の組織運営	1 校長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> * 社会のニーズ等を踏まえた学校経営ビジョンの設定 * 学校目標、学校運営計画の適切な設定と教職員の共通理解 * 的確・適切なリーダーシップの発揮、教職員からの信頼 	学校運営計画は「わかる・つたえる・つながるプロジェクト」としてグランドデザインの理念を簡潔に明確化しており、多くの変革が求められる中、校長が教職員とコミュニケーションをとりながら、一歩ずつ着実に変革と改善をすすめている。
	2 組織的運営・責任体制	<ul style="list-style-type: none"> * 教育目標、学校運営計画との一致 * 組織的な運営・責任体制の整備、校務分掌の機能 * 幼・小・中・高の一貫性のある指導体制の整備 	ミドルリーダーが職責を理解し、組織的な運営を行っている。カリキュラムの改善委員会が設けられ、教務主任を中心にカリキュラムの見直しがすすめられていることは評価できる。
	3 服務監督・危機管理体制	<ul style="list-style-type: none"> * 内規、危機管理マニュアル等の適切な整備 * 事件・事故発生時に迅速に対応するための実効性のある訓練や研修の実施 * ヒヤリハット報告（医療的ケアを含む）の迅速な情報共有体制の整備 	ヒヤリハット報告については改善が図られている。緊急時対応訓練を適切に行うことで、危機管理マニュアルの見直しが行われていることは評価できる。
	4 家庭・地域との連携、情報提供	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒及び保護者の満足度や要望を把握する取組 * 学校ホームページの活用、学校便りの発行等による情報の伝達・公開の取組 * 地域・企業・関係機関と連携・協働した取組 	校外学習や作品の出展、専門家の活用による絵画制作等多くの取組が行われていることは評価できる。
	5 センターの機能	<ul style="list-style-type: none"> * 小・中学校等の要請に応じた巡回相談等への積極的取組 * 特別支援教育のセンターとしての特色ある取組 	視覚障がい教育のセンター的機能の役割を担っており、「あいサポおいた」の活動として来校相談、巡回相談、教育相談と精力的に活動している。今後もその役割に期待したい。
学習指導	1 授業	<ul style="list-style-type: none"> * 一人一人の指導目標・方法の共通理解に基づいた実践 * チーム・ティーチングのよさを生かした指導の実践 * 学習効果を高めるための外部専門家との連携等の工夫 * 幼児児童生徒の自主的・主体的な学習への取組 	学部全体が一つのチームとして幼児児童生徒を理解し、実態に応じた指導が行われている。視覚障がいのある教員がロールモデル的な役割を果たすといったチーム・ティーチングが行われていることは評価できる。
	2 指導、支援のための計画の作成と活用	<ul style="list-style-type: none"> * 本人・保護者のニーズの把握、PDCAサイクルによる指導改善 	本人や保護者のニーズに応じて、遠隔による授業を実施するといった対応をしていることは評価できる。今後はさらなる活動の充実が望まれる。
	3 授業研究・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> * 計画的な授業研究の実施等による、組織的な授業改善への取組 * 専門性向上のための積極的取組、専門性の高い授業実践 	重複障がいのある幼児児童生徒の増加に伴い、組織的な教育的対応が求められる中、重複障がいの理解のための充実した研修が行われていたことは評価できる。
職業教育及び進路指導	1 進路指導	<ul style="list-style-type: none"> * 組織的なキャリア教育（進路指導）への取組 * 本人・保護者の進路希望の把握、きめ細かい進路指導 * 定期的な職場訪問等による状況把握、定着支援 	新規企業が多く参加する形となったワーキングフェアの実施や、外部講師による教育支援セミナーの実施等、時代のニーズに沿った対応が行われている。加えて、新たな職場開拓に伴う定着支援の必要性が生じるため、今後はさらなる組織的な対応に期待したい。
	2 職場開拓・就業体験の機会の確保	<ul style="list-style-type: none"> * 福祉・労働等の関係機関との情報共有、連携 * 実習先、就労先等の開拓に関する積極的取組 * 作業学習等の学習の工夫・改善への取組 * 地域や産業界等の協力等による就業体験の充実 	関係機関と連携を図りながら、企業に対して、生徒の雇用促進のための理解啓発をすすめている。職場実習に向けて、本格的な校内実習を実施する等、意欲的な取組を行っていることは評価できる。
豊かな心・健やかな体の育成	1 生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒理解のため保護者や関係機関と連携 * 障がいの状態等を共通理解し、組織的な生徒指導の取組 * 情報モラル等、社会生活に必要な課題に対する適切な対応 	現在の課題に対して真摯に向き合い、重複障がいのある幼児児童生徒に対する理解の促進を組織的にすすめていることが評価できる。
	2 教育相談	<ul style="list-style-type: none"> * 専門的な立場のスクールカウンセラー等との連携 * 教育相談等に関する知識習得や技能向上に向けた取組 	スクールカウンセラー等の専門家と連携しながら、幼児児童生徒の障がい特性の理解促進に取り組んでいる。今後も専門家との連携を継続していくことに期待したい。
	3 特別活動	<ul style="list-style-type: none"> * 学校、地域の実態等に即した学校行事、児童生徒会活動等の取組 * 交流及び共同学習への積極的取組 	地域との連携に積極的に取り組んでおり、交流及び共同学習の活性化は、幼児児童生徒の学びを豊かにしており、今後の展開に期待したい。
	4 安全管理・医療的ケア	<ul style="list-style-type: none"> * 幼児児童生徒の健康管理のための取組 * 教職員・幼児児童生徒が安全に行動できる取組や環境作り * 校内の医療的ケア実施体制の整備 	幼児児童生徒の健康状態を的確に把握している。定期的に安全委員会が開催されており、主治医への受診同行も実施されていることは評価できる。
総合評価	<p>県内唯一の視覚障がい特別支援学校として重要な役割を担っており、専門性の向上を図りつつ時代の変化にも対応していくという困難な課題に真摯に向き合い、校長が示すグランドデザインの理念の下、教職員が丸となりながら、課題解決に向けて継続的に取り組んでいる。重複障がい児の増加に伴い、外部専門家と連携し、専門性の高い研修を実施することで幼児児童生徒の障がいに対する教職員の理解促進を組織的にすすめていることは評価できる。また専門家を招いた絵画制作等、地域と積極的に連携し、幼児児童生徒の教育活動を充実させている。進路指導では、積極的に福祉施設等への見学や実習などを行い、新たな分野への活路を見出そうとしていることは評価できるが、今後は、障がい特性に応じた職場開拓の拡大に向け、関係機関との連携の強化を図り、今まで以上の組織的な対応に期待したい。</p>		
校長コメント	<p>視覚に障がいがある幼児から成人までの幅広い年齢を対象に、「主体性・協働性の向上」「課題解決力の向上」「安心・安全な学校」の実現に向け教育活動を展開している。幼児児童生徒には「わかる・つたえる・つながる」をあいことばに、自己実現に向けた意識を育てることができている。多面的で、複層化する課題はあるが、学部主事や分掌主任は課題を整理し、解決に向けた新たなチャレンジにリーダーシップを発揮している。今後は盲学校のノウハウが詰まった授業（自立活動・教科教育・職業教育等）を発信することで、本校の魅力を伝えていきたい。また、更なる教育の充実に向け外部専門家や外部機関との組織的な連携に努めていく。116年の伝統という縦系にインクルーシブ教育システムにおける盲学校の在り方という横系を織り込み、時代のニーズに応えることができる大分県立盲学校としての歴史を紡ぎ続けていくために、全教職員で取り組んでいく。</p>		